

1. 施策の目標達成指標の一覧(案)

- ・指標の前の＊は、ウェルビーイング設問であることを示す。

指標名	基 準 値(2025)		目標値 (2029)	算定式	出典・定義など			
	時 点	数 値						
政策1 誰もがいつまでも成長し続け、輝けるまち(教育・文化)								
1-1 生涯学習の充実								
地域学校協働活動推進員の委嘱校数	2024	0校	12校	実数	地域学校協働活動推進員の委嘱校数			
[指標の説明、指標を採用する理由] 本指標は、地域と学校が連携・協働して教育活動を進める体制の整備状況を示す。調整役となる推進員の配置により、地域人材と学校とのつながりが深まり、市民の学びや経験が自己実現だけでなく、学校支援や地域活動への参画を通じて社会参加につながる環境が整う。また、地域の多様な大人と関わることで、子ども達が郷土への誇りや愛着を育み、学校が地域に支えられた開かれた学びの場となるため指標として位置付け、全校配置を目標とする								
市民一人あたり図書貸出冊数	2024	2.4冊	5.4冊	図書貸出冊数/人口	市内実績(県内平均5.4冊)			
[指標の説明、指標を採用する理由] 県内市町村における人口あたりの図書貸出数は平均5.4冊で、市内実績が2.4冊であり倍増を見込む。 図書館司書の資質向上や蔵書の充実、快適な空間づくりを図ることで、市民が集い、憩い、安らぎ、学びあう空間とし、滞在時間の延長を目指すための指標として採用する。								
図書館登録率	2024	48.5%	66.4%	実数	2023年 県内市町村平均66.4%			
[指標の説明、指標を採用する理由] 市内の図書館登録率が48.5%で、県内市町村の人口あたりの図書館登録率の平均が66.4%であり、同等の登録率になるよう増加を見込む。 新図書館整備にあわせ、より多くの市民が図書館を利用し、学びや新たな発見等につながることを目指す。								
市民一人あたり公民館利用回数	2024	2.7回	3.3回	市内公民館年間延べ利用回数/人口	市内全公立公民館(16館)総利用回数			
[指標の説明、指標を採用する理由] 公民館は地域の最も身近な公共施設(社会教育施設)であり、地域の方が活動する場であり、ウェルビーイング主観指標にある「学びたいことを学べる機会がある」の機会を提供する場として位置付け、指標として採用。前年比5%増を見込む。 人口に対する利用回数を採用することで、市民の地域での活動の活性状況が見て取れる指標となり、生涯学習に取り組む環境づくりに寄与できる。								
1-2 就学前の教育、保育等の充実								
公立認定こども園の入園率	2024	92.7%	100%	入園児数/申請者数	年度末申請者数			
[指標の説明、指標を採用する理由] 年度当初の待機児童数は0人であるが、年度途中の入園希望者もすべて入園できることを目指した目標値とする。 公立認定こども園への入園希望者が年間を通じて入園できることにより、待機児童の解消に寄与できる指標として採用する。								
保育教諭一人あたりの年間研修受講日数	2024	4.5日	7.0日	実数	保育教諭研修受講日数			
[指標の説明、指標を採用する理由] 質の高い保育教諭を育成し、多様化する保育ニーズへの対応として、研修機会の確保を指標とする。 2024年度の実績に対して、約1.5倍の目標値とする。								

指標名	基 準 値(2025)		目標値 (2029)	算定式	出典・定義など
	時 点	数 値			
「子どもが楽しく園に通っている」と回答した割合	2024	97.9%	100%	該当設問の肯定回答数/アンケート回答数	保護者アンケート調査
[指標の説明、指標を採用する理由]					
毎年こども園で行うアンケートにおいて、「思う」、「ややそう思う」と答えた割合。 満足度の高い園運営を評価する一つの指標として採用する。					
1-3 学校教育の充実					
外国語教育環境満足度	2024	76.6%	90.0%	「英語の授業の内容はよく分かる」の回答数/調査回答数	県学力・学習状況調査(中学校)
[指標の説明、指標を採用する理由]					
岡山県学力・学習状況調査における、1つの設問。授業内容・指導法、教材・設備・ALTの配置を含めた活動環境などについて評価できる指標として採用する。 市全体として英語教育における学びの質を向上させるため、2028年調査結果を市平均で90%まで引き上げる。					
「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と回答した児童生徒の割合	2024	73.8%	90.0%	該当設問の肯定回答数/調査回答者数	全国学力・学習状況調査(小中学校)
[指標の説明、指標を採用する理由]					
全国学力・学習状況調査における、1つの設問。探究的な学習の中核となり、主体的に課題をとらえる力や自ら解決に向けて行動する力について評価できる指標として採用する。 市全体として主体的・対話的で深い学びを実現するため、2028年調査結果を市平均で90%まで引き上げる。					
ICT 活用スキル達成度・ICT 環境満足度 学校情報化認定制度(日本教育工学協会)の各チェック項目(①教科指導におけるICT活用、②情報教育、③校務の情報化、④情報化推進体制)のレベル	2024	市平均 ① 1.8 ② 1.7 ③ 1.6 ④ 1.8	市平均 ① 2.0 ② 2.0 ③ 2.0 ④ 2.0	該当設問への肯定回答の平均値	備前市1人1台端末利活用推進計画に関する調査(小中学校) レベル: 0(取組が不十分な状態) 1(部分的に取り組まれている状態) 2(学校として十分な取り組みが行われている状態) 3(先進的・発展的な取り組みが行われている状態)
[指標の説明、指標を採用する理由]					
日本教育工学協会が行っている学校情報化認定制度の各チェック項目①～④のレベルを0～3の4段階で数値化。 ①～④それぞれに5つの設問がある(全20問)。認定制度の活用は文科省、岡山県教委も推奨しており、情報化の進捗状況を定期的に把握でき、全国の学校の情報化レベルと比較することも可能であるため指標とする。 ①～④について、それぞれ平均レベル2を満たすことが学校情報化優良校の認定基準とされているため、本市においても目標値を2.0とする。					
読書意欲・図書館司書配置を含めた環境満足度	2023	64.8%	90.0%	該当設問の肯定回答数/調査回答者数	2023全国学力・学習状況調査
[指標の説明、指標を採用する理由]					
全国学力・学習状況調査における設問の「読書は好きだ」の肯定率を指標とする。児童生徒の読書意欲や図書館司書配置の状況を含めた環境満足度を評価できる。 図書館司書の配置により、児童生徒の発達段階に応じた図書の選定や読書活動の企画を充実させるため、市平均で90%まで引き上げる。					

指標名	基 準 値(2025)		目標値 (2029)	算定式	出典・定義など
	時 点	数 値			
希望進路意識・進路決定率	2024	100%	100%	希望する進路が決定している生徒の割合	進路意識調査 進路決定調査 志願者数
[指標の説明、指標を採用する理由]					
片上高等学校では社会を生き抜く力の育成を図りつつ、卒業後を見越したキャリア教育を推進しており、希望する進路が決定している生徒の割合を指標とする。					
1-4 歴史文化の活用と伝統文化の継承					
*「暮らしている地域では、文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい」と回答した市民の割合	2025	23.1%	32.3%	有効回答数に対する肯定意見の割合	市民意識調査
[指標の説明、指標を採用する理由]					
市民意識調査において、自分のまちに対して「暮らしている地域では、文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい」と感じている人の割合を測定する。基準値23.1%の1割である2.31%ずつ増加させた値を目標とする。					
市民一人ひとりが地域の文化に誇りや愛着を持つことは、文化の継承や来訪者への魅力発信の基盤となるため、市民の意識変化を定期的に把握する必要があり、「意識」の変化を可視化する重要な指標として採用する。					
ワークショップの募集人員に対する参加者数の割合	2024	83.2%	100%	実績	2024年度実績: 歴史民俗資料館 なし 加子浦歴史文化館 (定員50人、参加者27人) 埋蔵文化財管理センター (定員105人、参加者102人)
[指標の説明、指標を採用する理由]					
市内の文化施設(歴史民俗資料館、加子浦歴史文化館、埋蔵文化財管理センター)における、ワークショップの募集人員に対する参加者の割合を指標とする。参加者数の割合が低いワークショップは実施を見直すなど、充足率100%を目標とする。					
文化や歴史に関心を持つきっかけを市民に提供するためには、参加型のワークショップの実施は有効である。募集に対する参加の割合を増やすことで、市民の興味や意欲を高めるテーマ設定や事業内容のレベルアップを図りながら、文化との接点を拡大し、文化振興の裾野を広げる狙いがある。					
各文化施設入館者数	2024	5,614人	6,500人	実績	2024年入館者: 歴史民俗資料館1,144人 加子浦歴史文化館3,548人 埋蔵文化財管理センター 922人 計 5,614人
[指標の説明、指標を採用する理由]					
市が管理する文化施設(歴史民俗資料館、加子浦歴史文化館、埋蔵文化財管理センター)の年間入館者の総数。					
コロナ禍前の入館者状況に回復させることを目標とする。					
施設の利用実態を把握することで、文化資源が市民や観光客にとってどの程度活用されているかを定量的に測定することができ、施策の効果測定や施設整備の評価に直結する数値となる。					
備前市美術館の来館者数	2025	-	32,800人	実績	2025年7月12日開館
[指標の説明、指標を採用する理由]					
備前市美術館は令和7年7月12日に開館。施策の目標「新たな文化的魅力を創出し、誰もが身近に芸術文化に触れることができる場」を達成基準として、来館者数(有料展示入館者数)を指標とする。					
開館から1年は、県内及び近隣の同規模施設の来館者数をベースに30,000人/年を目標とする。施策目標達成のため、各種企画展示やワークショップ、地域文化振興にも繋がる取組を実施することで、来館者の増加を図る。					
なお、目標値は、旧施設「備前焼ミュージアム」の入館者数増減率、岡山県内類似施設の入館者数増加率及び減少率の平均値を算出し、当初目標来館者数からの積算を根拠とする。					

指標名	基 準 値(2025)		目標値 (2029)	算定式	出典・定義など
	時 点	数 値			
1-5 スポーツ・レクリエーション活動の推進					
休日の地域展開が完了した部活動の割合	2024	21.4%	88.5%	完了部活動数 / 全部活動数	備前市立中学校部活動数
[指標の説明、指標を採用する理由] 少子化の進展により、廃部や休部、活動を縮小する部活動が多くなっていることに加え、教員の働き方改革のため、地域全体で子どもの体験機会を確保する必要がある。国の最終報告により、令和13年度までに「休日における原則すべての部活動の地域展開の実現を目指す」という目標に向か、本市においても段階的に進めていくことから指標とする。					
「スポーツ(運動)を定期的にしている」と回答した市民(10代～70代)の割合	2025	41.8%	45.0%	有効回答数に対する肯定意見の割合	市民意識調査
[指標の説明、指標を採用する理由] 10代から70代の年代で、1週間のうち1日以上運動している人が41.8%であることから、ほとんど運動しない人が60%程度存在する。 出前スポーツ教室やスポーツ大会等を実施し、スポーツに親しむ機会の創出やきっかけづくりを行うことで、市民が生きがいを持ち、元気で豊かな潤いのある暮らしができることを目指すため、定期的に運動する人の割合を増やしていく必要があることから指標とする。 目標値は、H25～R5まで30%台を推移していたことを踏まえ、R11調査で45%程度を目標とする。					
市内体育施設利用者数	2024	262,817人	273,300人	実数	市内体育施設利用者数
[指標の説明、指標を採用する理由] 地域資源を活用したイベントの開催やスポーツ環境の整備などにより、スポーツを通じたまちおこしの機運を醸成するため、SNSを活用した情報発信を行うなど施設の使用者を増やしていく必要あることから指標とする。 目標値は、年1%程度の増加を見込む。					